

武蔵野市第四期長期計画調整計画策定委員会と武蔵野市第四期長期計画
調整計画市民会議との意見交換会 会議要録

日 時 平成 20 年 1 月 29 日（火曜日） 午後 6 時 30 分から午後 9 時 43 分まで

場 所 市役所 8 階 802 会議室

出席者 田村委員長、山本副委員長、酒井副委員長、加瀬委員、栗田委員、栗原委員、
小原委員、前川委員、向井委員、村井委員、会田委員

市民会議市民委員 45 名、企画政策室長、企画調整課長、企画調整課副参事（行
政経営・評価担当）、企画調整課副参事（新公共施設開設準備担当）ほか
傍聴者 7 名

1 . 開 会

【委員長】計画づくりというのは、まちづくりの非常に大きな道具である。

今回は 1 年前倒して調整計画を策定している。基本構想長期計画に基づくものではあ
るが、このわずかな間の多くの社会的、経済的变化を整理する必要があり、様々なかたち
で議論を重ねてきた。

今回の調整計画も行政の計画ではあるが、その主語は我々であり、我々の生活であり、
我々が暮らす地域であると確信している。我々にとってもまちづくりのテキストブックだ
と思っている。

この間の議論において一番勉強したのは、我々策定委員と行政かもしれない。こうして
原案をまとめたので、忌憚の無い意見を聞かせていただきたい。また市民会議から推薦さ
れた委員にもご挨拶をいただきたい。

【委 員】今回初めて、調整計画の策定にあたり市民会議が組織された。各分野から提言
書が提出され、その提言書を託され、我々は策定委員会に参画してきた。

大きなテーマの一つとして、協働のあり方がある。市民委員は、市民のニーズである市
民会議の提言書の内容を反映させるため、行政側と議論してきた。学識経験者である委員
は、広い視野から市民委員を後押ししてくれた。行政も次第に、策定委員の熱意によって、
市民が本当に重要としているものに気づき、原案をまとめることが出来たと思っている。
市民、学識経験者、行政の三者協働のうえに立った計画原案を、少しでも完成に近づける
ため、本日もご意見をいただきたい。

【事務局】一言お詫び申し上げます。1月23日発行の市報特集号の中で、文書による意見提出の期限を2月1日までと案内したが、期間が短いという意見をいただいて、20日まで延長した。

【委員長】計画原案は、最初に「計画の位置付けと策定の方法」、それから1章から4章で成り立っている。特に第3章の「施策の体系」については、5つの分野になっている。1、2章についても意見をいただきたい。

【市民委員】学校教育においては、小学校高学年の教科担任制の拡充、市独自の教員加配の研究、部活動の外部指導員の活用、児童・生徒の芸術にふれる意義についての記述は評価できる。また、青少年の国際交流も大変重要と考える。

【市民委員】認可保育所の新設は大変評価できるが、定員の弾力化についてはすでに実施している。これ以上増えるのは好ましくない。また、認可保育所の年齢別の定員の見直しとはどのようなことか。

【委員】弾力化については、余裕の有無を含めて検討する。年齢別の定員の見直しとは、1歳からの入所希望者が増えているため、この部分を厚くするという趣旨だ。

【市民委員】あそべえと学童クラブの連携についての記述は評価するが、学童の土曜開所については、もう少し具体的な記述を希望する。

【委員】策定委員会の中でも、様々な意見があったが、まず小学校1、2年生の子ども達がどう思っているか調査の必要があり、また父母に対しても、土曜日のニーズがどれくらいあるか調査する必要がある。

【市民委員】短時間、定曜日、夜間などの一時保育のニーズに応えるための体制の構築とあるが、ハコもの設置以外の保育サービスの拡充も含まれていると考えて良いか。

【委員】含まれている。極端な例だと、母親同士の共助の部分で、子どもを預かり合うなど様々な形態がある。様々な組み合わせを全体的に見ている。

【市民委員】他の自治体はファミリーサポートサービスがあるが、武蔵野市ではそういった具体的な言葉が使われていない。残念。

【委員】検討する。

【市民委員】武蔵野市の生涯学習は貧しいと思う。問題は、施設より人材がないことだと思うが、どうか。

【委員】決して貧しくはないが、情報が上手く市民に伝わっていない。また、生涯学習が体系化されていない。まず体系化し、きちりとした体系のもとに施設の役割分担をし、人材を配置し、広報していく必要がある。

【委員長】武蔵野市の場合は、生涯学習のネタはあるが、議論がない。つまり、供給する側がどういう発想のもと、組み立てていくかが大事であるにも関わらず、そのあたりの議論がない。

【市民委員】図書館サービスの中で弱いのはレファレンスである。レファレンスについての言及が必要であり、記述していただきたい。

【委員】図書検索の電子化という記述が、レファレンスにつながっていく。サービスの充実については、これからいろいろ考えられるのではないか。

【委員長】レファレンスは非常に広い世界。図書館と地域をつなぐ輪である。

【市民委員】レファレンスとは、市民がこういうことを調べたい、知りたいという時に手助けをしてくれるサービスだと思う。そういう記述はあるか。

【委員】原案では、「地域や住民の課題解決の支援」と記述しているとおり、レファレンスをさらに進め、市民に情報を活用してもらおうサービスの能力を高めていきたいと考える。

【市民委員】武蔵野プレイスの開館を契機とした新たな市民文化の創造が重点課題として記述されている。新しい文化の創造については、もう少し具体的な記述が必要ではないか。

【委員】具体的にということであれば、専門家会議にある理念、コンセプトを押さえた上で、それぞれの分野で側面にあった内容を記述するというかたちが良いと考えている。

【委員長】プレイスについては、ソフトを重視し、しっかりした施設にしてもらいたい。

【市民委員】市民の気持ちを反映したすばらしい文章であり、感謝している。

【市民委員】今後の計画実行のスケジュールやその評価システムの確立についての記述が欲しい。

また、認知症に対して、見守りなど事後の対策が重点的に記述されているが、予防事業の推進についてもふれて欲しい。

【委員長】運営システムはこれからの大問題である。行政にも変革が見られたと思っているが、市民の側からも常に見守っていくことをお願いしたい。

【市民委員】災害時要援護者支援事業を試行したとあるが、その結果と方針を具体的に記述してもらいたい。また、施策の体系の「防災態勢の強化」の中でも記述をお願いしたい。

「支えられ感」の記述については、受身の姿勢ではなく「支えあい感」の方が適切。

「公共施設や公益性の高い施設はもちろんのこと、道路から建物、都市空間へとバリアフリー整備を広げ、誰もが暮らしやすいまちづくりの推進を図る。」とあるが、強力に推進してもらいたい。

「積極的な情報発信と情報セキュリティの徹底」について異論はないが、情報発信のみでは不十分。必要な情報を、必要としている市民に伝えていく施策の検討が必要。たとえば、インターネットを使う市民と使わない市民の情報格差は大きい。情報弱者ほど一層市の支援を必要としているケースが多い。

【委員】「支えられ感」とは、敢えて一歩進んだ考え方として記述した。具体的にサポートしてもらう「支えあい」は日常必要だが、同じような状況の市民同士がお互いに存在を認識してくれていることが生きていく原動力になる。それが「支えられ感」だと思う。

【委員】災害時支援事業の試行については、これからどうするかという問題が出てきているので、20年度以降全市的に展開するということまでは確認されている。新しいものを生み出そうとしているところ。

【委員】関連して、認知症について。認知症の見守りネットワークの構築が、地域包括支援センターを中心に全国的に行われている。近隣市において、初めて高齢者虐待防止法に基づく逮捕者がでたが、虐待をされている当事者は、身内の虐待ということもあり、あまり通報したがない。本人が声をあげられるような状況でなければいけない。そのためには、地域に相談できる人がいることが大切だ。援護事業を大きく評価しているが、現在介護保険を受けている人を対象としている。それだけではなく、仲間同士のネットワークがなければ、認知症の予防も何も無い。そういった意味で、災害時要援護者支援事業は、福祉のまちづくりを見直す良いきっかけになる。

【委員長】バリアフリーについては、出来る限りそういうかたちで考えさせていただく。

【市民委員】地域リハビリテーションの意味が分らない。リハビリテーションというと、脳梗塞などからのリハビリ等を思いおこすが。また、「市民一人ひとりの実状に即した支援を行う」とあるが、そのためには、しっかりとした相談窓口が必要だ。

また、「高齢者が地域でより柔軟な住居形態を選べるように」という記述を評価するが、できれば前段に、高齢者がなぜ住居形態を変えなくてはならないか、という記述が欲しい。

【委員】地域包括支援センター、医療制度の変更により在宅中心になってきた流れを受けて、もう一度地域リハビリテーションを見直そうという流れがある。具体的にはまだ論

議の途中で、こうだとは言い切れない部分があるが、少なくとも地域包括、在宅介護支援センターの機能の強化や医療体制の強化などこういう問題を繋ぎあわせ、市として受けとめて、解決策を検討することが必要だ。

住居形態の記述については、前提がしっかり書いていないと意味が分らないと思う。書き直すべきだと思う。

【市民委員】テンミリオンハウスは6ヶ所とされているが、高齢者関連は6ヶ所だが、保育関連も含めると7ヶ所だ。

【市民委員】原案と市報の要約を見比べると、拾い読みのになっている。原案を大事にして、忠実に執行していただきたい。

市民会議において、「市政のあらゆる部門において、共にPDCAをまわしていくことが協働」と議論し、提言書に記述した。原案では、協働を進めていくためには、それぞれ責任を負うべき領域、相互に取り組むべき領域の区分けを明確にすると記述されているが、どういう意味か。

【委員長】市報については、ボリュームに制約があるためこうなった。他意はない。

【委員】協働については、その意味も含意されている。ただ、PDCAという言葉に縛られてしまうと、それだけに終始してしまう。そこにプラスアルファの要素が不足する。また、市民も協働をしていくからには、高い目標を掲げ、学んでいくということを含意させている。

【市民委員】コミュニティ評価委員会について記述がなされているが、自発的なコミュニティ活動に対して何をもとに評価を行うか、という課題がある。

地域、目的、電子コミュニティについて記述があるが、市民の中から出来上がったとは言えず、カタにはめられている感がある。

第6期コミュニティ市民委員会との記述があるが、第5期までのあり方を踏襲すると思う。踏襲するのではなく、コミュニティ条例を見直す、新たな委員会設置を希望する。

【委員】評価については、課題と認識している。次のコミュニティ市民委員会でとり挙げるべき課題である。新たな委員会については、気持ちとしては同じであるが、この計画に書き込むよりも、協働してあらたに作り上げていくことに意味がある。

【市民委員】中小企業は市民生活を支えるものである。景気動向の把握、実態調査を実施した上で、墨田区、八尾市のように中小企業振興基本条例を策定してもらいたい。

都市農業については、地産池消を強く打ち出した点で評価できる。

【委員長】今計画において産業は重視してきた。工業はここ数年で弱くなってきたが、守っていく必要があり、そのために攻めの姿勢も重要。ただ、条例までいけるかは分からないが、次回の計画あたりで問題となるかもしれない。

【市民委員】高齢者の虐待等についてふれられているにも関わらず、DVについての記述がないのは納得できない。DVは個人の尊厳を犯すものである。記述をお願いしたい。現在、男女共同参画市民会議に参加しているが、長期計画において記述がないのは心細い。

【委員】苦労した点であり、課題として認識しているが、市の計画の中でどこが責任を持って事業化していくか見極めがつかないでいる。具体的に提案をいただくと良い。

【市民委員】担当を決めてからというのは、おかしい。

【委員】男女共同参画はすでに達成されている、という認識の人もいる中、唐突に計画の中に記述するのはいかがか。市民の合意レベルがまだ十分ではなく、議論を起こしていくことが必要ではないか。

【市民委員】第四期長期計画策定時の環境問題の認識から大きな変化がある、ということが書かれているが、具体的な施策については、持続可能な都市の形成というレベルで書かれている。環境は全ての分野に関わってくるので、全ての施策において、環境を配慮する内容が必要だ。

地域通貨について、どこが事業主体となるのか。行政主導か市民主導か第3セクター主導なのか、主体によって全く質が変わる。方向性を見出せる、イメージできるような記述が必要。

【委員】環境については、この間、社会的認識が深まった分野だ。様々な行政の分野で、横断的に取り組む課題として重点課題として採り上げ、また、教育の中でも環境教育などのようなかたちで記述した。

【委員】地域通貨については、もっと市民に知ってもらいたい、という意味で記述した。また、どこの地域通貨も、うまくいっているとは言えない。限界がある中で、今回のテーマである協働の中でどう活用するか、いろいろな方の意見を聞きたい。後一押しが欲しい。

【市民委員】一般廃棄物処理基本計画の中間まとめで、様々な処理施設を網羅しているが、現在の用地では広さが不足だと思う。現在、「地域住民」という記述があるが、もっと広げて「現施設及び将来廃棄物施設が建てられるであろう地域住民」とした方が良い。市民に将来自分の近くに処理施設が建てられる可能性がある、ということ知らせる意味で記述を

した方が良い。

雨水のリサイクルについても考える必要がある。武蔵野は雨が降ると、下水道で防ぐことを考えているが、下に染み込む前に、墨田区のように、うまく生活用水に使えるように工夫が必要。

【委員長】クリーンセンターは、場所選定の問題もあるので、少し考える。

雨水のリサイクルについては、文中でふれていないが、近隣市での取り組みもあるので、少し考えてみる。

【市民委員】商店街、農業について、思いの込めたものが書かれ、うれしく思う。あとは、自分達ができることを踏み出していくことが大事だ。緑町商店街の中でも活性化策の検討を始めた。

ごみ減量協議会に関する記述について、「武蔵野ごみチャレンジ 700 グラムキャンペーンを幅広く展開していく。また、ごみ減量協議会を中心に、」の文章は、「ごみ減量協議会を中心に、武蔵野ごみチャレンジ 700 グラムキャンペーンを幅広く展開していく。」とした方が良い。

ごみを減らすためには、原案に記述の通り、社会経済システムやライフスタイルの変革が必要だが、我々の生活の中から様々な課題を抽出し、本当に豊かな生活、真の豊かさについて、市民の合意になっていかねばならない。それが、本当の意味での学習、生涯学習だ。今まで、そのような課題を学ぶ場所が無かったのではないか。

【委員長】少し検討させていただきたい。

【市民委員】できる限りの環境施策を実施し、その取り組みを全国にも発信していくと記述されているが、より具体的にするには地球温暖化防止条例のようなかたちでまとめたらどうか。

【市民委員】「地域通貨」や「レファレンス」は、計画の中に書いてあること自体が、意味のあることだ。逆に、目的別、電子コミュニティは市民の間で合意できていないので、削除してもらいたい。

【委員】今のコミュニティ条例で書かれている言葉だが、適当かどうかという議論がある。電子コミュニティは今現在はほとんど活用されていないが、将来的には新たな媒体として機能する可能性があるのではないかと、ということで残している。

【委員長】市が支援に積極的に取り組むというのは、少し時期尚早なのかもしれない。

【市民委員】緑・環境・市民生活分野の記述はすばらしい。これだけ言い切れているのは

良い。他の分野でもこの言い切り方をしてもらいたい。

【委員長】誤解である。検討、研究は悪い言葉ではない。市民会議からたくさんの提案があったが、条件が整っていないものもある。そういったものを入れ込もうとすると、こういった言葉になる。

【市民委員】水害対策の推進で、下水道施設の能力を 50 mm/h に対して対策をたてると記述されている。市民会議提案の中では、以前の水害 96 mm/h に対して対策をたてていこう、という提案であり、スケールダウンしている。お金と時間の問題ということか。

一方、吉祥寺地区南北地区については、南北通路についてやパークロードの歩行者優先化など、市民会議提案より具体的に書かれている。5 年間にある程度目途はつくのか。

【委員】今回上下水道については、かなり議論し、都市基盤の中でここだけ項目だてを変えている。何百億という単位での上下水道の設備更新の負担について第一義的に記述し、正確に伝えることに努めた。水害についても、ゲリラ豪雨はかなり局地的なものであり、特に武蔵野市においては下流をどうするのかという問題もある。費用対効果、確率、また一時貯留をどのくらい設けるのかなど建築指導などを合わせて、総合的に考える必要がある。その中で、まずこれだけは必ず行う第一段階としてこういう事を書いた。

【委員長】吉祥寺駅の問題、パークロードの問題については、ランドデザインでも記述されているが、そこに我々の考え方も入れて、特に強調したいと思い記述した。

【市民委員】水害対策は、小中学校の貯留浸透施設だけでは足りない。北町に貯留池をつくるべきではないか。雨水対策だけでなく、温暖化に向けた干ばつの対策にもなる。

【委員】個人的には全小中学校に設置するのは無駄ではないかと考える。ハザードマップに出ている、中央図書館の裏、四小付近など要所ごとに必要。土に浸透させていく視点は当然必要だ。

【市民委員】下水道の記述は評価する。ただし、昭和 27 年の下水道事業着手当時の計画と現在の状態では、道路や屋根の構造などが変化している。その辺をどう捉えて策定していくのか。策定の際には、市民も含めた P D C A を実施してもらいたい。

浸透ますをつくり地面に染み込ませるという趣旨の記述がなされているが、抜本的には杉並区に流す配水管の問題があるが、記述がされていない。どう考えるか。

【委員長】下水道計画の中では、当時の基盤と現在の基盤の本質的議論をしてもらいたい。下水道が他のまちにつながっているというようなことが、あまり市民には知られていない。

その中で、今回の記述をした。

協働という点から言えば、武蔵野の中には様々な専門家がいるので、実質的な市民会議があってもいいと思う。

【市民委員】景観条例の策定には大いに賛成だ。

ランドデザインに基づいてまちづくりを進めていくと記述がされている。ランドデザインは非常に良くできているが、市民の視点が足りない。しかし、市民と一緒にまちづくりを進めていくとされ、非常に良い。都市基盤の場合も当然その意味を含んでいると思うが、ハコものが多く、市民の目を基盤整備に向けるとということが欠けがちになってしまう。そのような意味を一層はっきりさせると良い。

都市基盤整備において、様々な権利等の関係があり、なかなか計画を明確に発表できないことは理解しているが、具体的に分かりやすく、市民が実感できるようなものを発表してもらいたい。

【委員長】行政運営という問題であり、計画のマネージングという意味でも非常に難しい問題である。個人的には、財政計画を先頭にして書くのが良いと思う。武蔵野の大きな課題だ。

商業の活性化というテーマは、技術的な問題、情報の問題がありなかなか市民が参加しにくい分野であるが、まちづくり条例など可能な限り情報を公開していくこと、市民が参加していくことを書いているので、ご了解いただきたい。

【市民委員】第四期長期計画では、自動車の為の都市計画道路という考え方であったが、今回は生活道路における歩行者の安全・安心を第一にしたことは、大いに評価する。

自転車の安全については、他の記述と比べて内容が貧しい。自転車は環境にやさしい乗物であるが、日本は自転車の被害が他国と比べて圧倒的に多い。自転車の安全の記述は、付け足し程度に書かれているように思われる。武蔵野市では、走行安全について十分認識しているようには見えない。自転車道をつくる余地がない、という意見もあるが、車道を削減して自転車道をつくることも可能だと思うが。

【委員長】自転車レーンの設置は、大変難しい問題だ。そうなると、人が変わるか車が変わるか、ということでマナーアップキャンペーンということになる。メリットを付与した講習会制度など考えられているが、まちと道路をどうしていくか、というのはこれからの問題だ。危機感をどう表現するか、という点に関して気おくれしているのは、指摘のとおり。ここは、もう少し強く書いてもよいのでは、と思う。

【市民委員】杉並区での実験の報道を見ると、自転車にとっても安全で、歩行者にとっても安全で、非常に歓迎している発言が多かった。隣の区で出来て、武蔵野市で出来ないというのは納得が出来ない。

【委員】武蔵野、三鷹地区においても実験の可能性はあるが、なかなか裏づけがないものについては記述が難しいため、ご容赦いただければと思う。

【市民委員】長期計画において、これだけ住宅施策について記述されているのは、初めてだと思う。

大型開発等が進み、まちの景観が変わってきた。以前から住む住民は成す術がなかったが、まちづくり条例など、市民が果たす役割が見えてきた。

また、マンションや公的住宅が景観に果たす役目は非常に大きい。なんらかの支援策を行政の中でも行っていくべきだろう。

【委員長】都市は良い環境を守っていくと同時に変わっていくものでもある。出来る限り良いかたちですすめていくことが、これから大事なことである。

住宅の問題については、ルールをつくらなければならない。

【市民委員】商業地区だけでなく、周辺の住宅街の市民を入れて、中央圏、三鷹駅周辺についてもランドデザインを早急に策定する必要がある。

【委員長】幅広い視点から将来のまちづくりの方針ということを考えている。記述の仕方を検討する。

【市民委員】「健全な財政運営」について書かれているが、もう少しはっきり書いた方が良い。例えば市民の税負担が武蔵野市は、飛び抜けて高い。それに見合うことをやるし、市民の税負担軽減に向けて、というようなこと。

【委員長】もう少しはっきり見えるように書いていきたい。

【市民委員】お金があるからどうするというのではなく、市民のために、何をすべきかということ意識した、明確な記述がほしい。

【委員長】本来、財政計画の中で、しっかりと計画を考えていく必要がある。また、一度立ち止まって、過去の清算と将来の予測を立てる過渡期にあると思う。今回たくさんの提案をいただいたが、時間の都合もあり希望に添えない部分もあるが、今後はどう残していくかが大切。

【市民委員】象徴的な問題としてプレイスの建設だ。あれだけの費用をかけるのであれば、

夢のあるものをしっかりと作ってもらいたい。そのあたりを象徴的に取り上げてもらいたい。

【委員長】計画の中でも、そういった意味で積極的に書いてある。

【委員】市民の税金が主な財源であり、私自身が納得できるように、確認しながら記述してあることを汲んでもらいたい。

【市民委員】行・財政分野についてはよく書かれているが、この分野は前の4つの分野を串刺しにする記述がされていないと、全体としてのバランスがとれなくなる。また、財政は税金のみが歳入のもとである、という考えは旧来の考え方である。未利用地の利用や分権の流れを利用するなど工夫が必要。社会構造の変化に対して、不測の事態も考慮にいれながら、思い切った転換を図る必要がある。

【委員】行・財政分野は、他の分野をサポートすることを意識して書いた。また、「市有財産の有効活用の研究」と書いたが、「研究」という言葉を積極的に理解してもらいたい。縦割りの弊害に関しては、5年間の調整計画期間における改善はなかなか難しいということで、最終ページ「職員の資質向上の推進」のところで、提言書の意図を汲もうと考えた。

【委員長】欲しいものリストを挙げて、それを裏付ける税収があるというのは、厳しく言えば計画ではない。ウィッシュリストを、お金で支えているだけだ。計画体系を変える時期に来ていると思う。

【市民委員】今回市民会議から原案に至るまで、大事な事を行ってきたが、まだ第一歩であり、ここを足場にして進むことが必要。

「全ての市民が、その年齢や状態に関わらず、住み慣れた地域で、本人の意思に基づいて安心して生活が続けられるような支援」を視野に入れるということは、行政としては思い切った記述。また、こうしたことを進めることは、高福祉高負担という指摘があり、果たして本当にできるのか、という議論もあった。次の段階は、こうした事に対して回答が与えられる計画が必要。つまり、財源をどうするのかということ。これをやるために、これまでやってきたことはどうするのか、という議論が必要。

今回のテーマは、協働だと思う。そのためのルールを決めなければ先に進めない。そのためには、自治基本条例のようなものは必要。

【委員長】協働については、大きな一歩だと思っているが、焦らないようにしたい。反対する人も武蔵野市民としての考えがあるからだ。ただ、議論すればするほど、お互いに理解し合えるという確信は持っている。

【市民委員】施策の体系をどのように実施していくかが課題である。今後、策定委員を中心としたグループをつくり、少なくとも2年後にどこまで実施されているか進捗状況を検証する必要がある。全ての施策を行政のみでできるかという点も難しいので、われわれも個別の協議会などに参加していく必要がある。

【委員】市民が参加して原案ができたが、冷静に考える必要がある。策定委員は、確実に実行されるか意見具申する立場にあるが、市民会議は今後の見守りについて、自主的に組織を作っていく必要がある。また、市民会議推薦の策定委員として、今後の課題として、立場が曖昧であることと、日程が厳しいことなど解消すべきものがある。また、パートナーシップの確立のため市民も意識改革が必要。

【市民委員】財政計画における歳出計画と、これまで議論を行ってきた事業計画との整合性はあるのか。

借入金から基金を引いた額が減少し、正味財産が増えるから財政は健全とされているがそれで良いのか。

行・財政分野において、複式簿記の記述があるが、既に複式簿記会計は導入されていると思う。今後はこうしたものを活用したシステム開発へ重点を移していく必要があると思うが、いかがか。

【委員】財政計画については、一つ一つリンクさせたものではない。大きな枠を示したと理解してもらいたい。

借入金から基金を引いた残高の推移については、仮の条件を設定して算出しているものである。判断のための大きな指標となるというふうには捉えない方がよい。

電子計算機器を活用したという意味ではなく、複式簿記を利用したシステムの研究は行っている。実用させる方向で今後とも検討をつづけていく。

【市民委員】イコールパートナーシップであれば、市の職員もどんどん発言し、議論をして良いものを作り上げていくというのが協働だ。今後、市の職員もぜひ積極的に発言をしていったら良い。

【委員長】議会からも市民からも非常に素晴らしい意見をいただいた。市民会議の提案もたくさんあり、原案は130ページの言葉で限界はあるが、今回出てきた話を良い形で整理したい。

【委員】市民一人ひとりも地域を担っていくという自覚について、「地域経営の感覚」という記述をした。蛇足ではあるが、この調整計画についても、事業化し、予算をとおして

いくにも、条例をとおしていくにも、議会を経なければならない。つまり、議員の方々とも協調していくということで、それが市民としての1つの経営感覚である。そういう視点からこの計画を眺めていくことが必要である。

【市民委員】キャリア教育について、どこの学校で実践されているのか教えてほしい。

就労支援について、「ハローワークと連携して」と記述してあるが、ハローワークが事業縮小の方針を打ち出している。いつまでも、ハローワークに頼ることはできない。自主的に市が就労支援を実施していくことになると思う。

情報についての記述の内容は、窓口を開設したからサービス拡大したというものだが、職員は待ちの姿勢でなく、まちへ出ていく必要がある。

【委員】武蔵野市では随分長く、公立学校の職場体験を実施しており、これも立派なキャリア教育だ。

【委員長】キャリアというのは非常に広い意味がある。

情報収集については、本当は検討しなくてはいけないことだが、まずは情報提供の拡大から始めるということだ。

【委員長】今後、原案に色々な意見を入れて修正し、市長に提出する。今回は大勢の方に様々な意見をいただき、知恵にあふれたまちであるということを確認した。感謝する。